

REGULAR

CLOSE UP

# 救命救急センター 札幌市および道央圏の救急医療の砦



市立札幌病院救命救急センターは1983年6月に発足（当時の名称は「救急医療部」）しました。

現在、医師スタッフは常勤職員が14名と後期および初期研修医が4～5名で、二交代勤務制をとっています。看護師は56名、ベッド数は38床で病院1階の1フロアにまとまっています。

重症救急患者さんの行き場がないという事態を避けなければならない、という使命感を共有しながらスタッフは日夜診療に励んでおります。

救急患者さんは、市内はもちろん、市外の救急隊からの搬送もありますし、ドクターヘリにより直接搬送される場合もあります。市内や近郊の診療所・病院からの依頼により搬送される患者さんも少なくありません。搬送患者数は、年間で約1,000名くらいです。

当院では市内の救急現場などへ医師を直接向かわせるドクターカーシステムも消防局と共同で運用していて、出勤は年間500～600件に及びます。

## 小児救急への関与

日本の救急医療の中で体制整備が遅れているといわれている重症小児に対する救急体制を充実するため、国レベルでは、小児救急施設の集約化・重点化政策をとろうとしています。当院でも、札幌市/道央圏での小児救急の拠点となるべく、小児救急の経験豊富な医師を救命救急センターに今年度から迎え、体制整備を始めています。

内科的小児疾患のみならず、小児における救急対応に困った場合は、当センターにご相談いただければ幸いです。



救命救急センター  
部長  
牧瀬 博



## 他の診療科・職種を交えたチーム医療

救急医療は救急医だけで行うことはできません。

当院では、院内のすべての診療科や部門のサポートのもと、日々の救急診療が成り立っています。

また、患者さんが病院に搬入されるまでの救急現場や搬送途上での救命処置を受け持つ救急救命士の役割も重要ですが、札幌市消防局の救急救命士を含む救急隊員とはいろいろな場で交流をもち共同で症例検討なども行い、切磋琢磨しています。こういった普段の鍛錬が、札幌市の院外心肺停止患者さんの治療成績を押し上げているのだと思います。



## 救急施設は貴重な社会資源

救急部門の診療が成り立つためには、常に病床が効率的に運用され、空床が確保されなければなりません。

が、最近は複数の問題点をかかえ、もともと予備力の乏しい患者さんが増加しており、救急部門でなんとか安定化を得ても、次の受け入れ先の確保に難渋することが多くなっています。

救急医として、救急医療を必要としている患者さんをお断りすることは非常につらい事態ですが、やむなくお断りせざるを得ない場合もあるのが実情です。

限りある資源である救急部門の病床を次の救急患者さんに有効に使えるよう、ご理解とご支援をいただければと思います。